

平成31年度 鹿屋中央高等学校入学試験問題

国語

注意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて九ページです。これとは別に解答用紙が一枚あります。
- 3 受験番号は、解答用紙及び問題用紙の決められた欄に記入しなさい。
- 4 答えは、問題の指示に従って、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 5 監督者の「やめ」の合図ですぐにやめなさい。

受験 番号	
----------	--

次の1・2の問いに答えなさい。

1 次の——線部のカタカナは漢字に直し、漢字は仮名に直して書け。

- (1) 実験のセツピを調える。
- (2) 野菜を細かくキザむ。
- (3) 敵のサクリヤクにはまる。
- (4) 寂れた村を歩く。
- (5) 騒音が会話の妨げとなる。
- (6) 養蜂の仕事を営む。

2 次の行書で書かれた漢字をそれぞれ楷書で書いた場合、総画数が「雑」と同じになるものはどれか。次から選び、記号で答えよ。

ア イ ウ エ

誕 編 源 複

次の文章を読んで、あとの1〜5の問いに答えなさい。

私たちは人間の時間スケールだけがすべてではないことに気がつかなければならぬのである。そして自然の時間スケールとも、つきあうことのできる文化を手に入れなければならない。そうでなければ、自然はこわされていくばかりになるだろう。なぜなら自然は、もともと彼らもついていた時間スケールのなかで暮らしていたのであり、その時間世界を破壊されることは、自然にとっては苦痛であるに違いないからである。それは、人間は自分たちの時間のテンポで変わっていくことができるのに、野の花や虫たちは、そのスピードでは変わることができず、人間のつくりだす変化によって、追いつめられていくばかりなのと同じことである。

(注) 赤石川の美しい流れをみながら、私は人間たちの文明の手が伸びな

あるように思うのである。

自然は特有の時間世界をもっている。ゆっくりと流れゆく時間や、時間スケールの大きさもその特徴のひとつだろう。少しずつしか変わることはない森の時間はゆったりと流れ、ときにその森のなかには、数千年を生きる古木が息づいている。それとくらべれば、人間の時間世界はあわだしくその短い時間を変わっていく。

だがそれだけが、自然の時間の特徴だとは思わない。なぜなら自然は円を描くように繰り返される時間世界のなかで生きているのに対して、現代の人間たちは、直線的に伸びていく時間世界のなかで暮らしているような気がするからである。

森のなかでは季節は毎年繰り返されている。草花の花が咲き森の樹々が芽吹く春、濃緑の葉につつまれる夏、紅葉の秋、そして落葉の冬。季節は毎年同じように循環してきて、その季節のなかで森は、春の営み、夏の営み、そして秋の、冬の営みを繰り返す。毎年変わらない春を迎えることは、森の正常な姿である。こんな森の様子をみると、私には自然は循環する時間世界のなかで生きているように思えてくる。一年を単位とする時間循環があり、さらに幼木が老木となって倒れていく、大きな時間循環の世界がある。

そしてこの循環する時間世界のなかで暮らすものたちは、変化を求めてはいないのである。太古の自然と同じように、今日の自然も生きようとしている。

だが現代の人間たちはそんな時間世界のなかでは生きていない。私たちはけつして循環することもなく、変わりつづける直線的な時間のなかで生きているのである。過去は過ぎ去り、時間とともに私たちはすべてのもを变化させてしまう。自然が去年と同じ春の営みをはじめののに対して、人間たちは昨年から一年を経た新しい春を迎えるのである。

ある意味では、人間はこの直線的な時間世界を確立することによつ

かったがゆえに、白神山地の自然が守られたというのは、悲しむべきことだと思つた。悠々たるスケールをもつ自然の時間に、それとくらべればはるかにはかない人間の時間とが、共に存在している文化を、私たちはつくりださなければならぬときが来た、と。

(注) 大雪山の尾根で枝をひろげる一本のダケカンバの前で足をとめた。それは厳しい自然条件のもとで生きてきた、力強い表情をみせる山の木だった。

ダケカンバやシラカバは偉い木だ。森の樹々が風で倒れたり、切り倒されたりして山が裸になると、北海道ではまづ先にはえてきて、そこにカバ類の木が茂る森をつくる。そして大地が森で包まれると、その間からトドマツやエゾマツなどの木が芽生え、カバ類の木は次第に姿を消していく。

自然はいつでも与えられた条件を受け入れながら、その条件のもとで精いっぱい自然であろうとする。それは自然のたくましさでもあり、やさしさでもある。a、荒地からも、ときにアスファルトの割れ目からも、自然は芽生えてくる。深い森のなかでも、畑の畦道でも、河原の草地でも、自然はその条件を受け入れ、できるかぎりの自然であろうとするのである。人間たちは自然の条件をほとんど悪くしていったのに、自然は人間の文明を批判することもなくその場で生きながら、長い時間をかけながら、ゆっくり深い自然の世界に戻っていくとするのである。

自然と人間の共生、私たちは近年になってしばしばこの言葉を口にすようになった。だが自然と人間の共生とは何だろうか。この問題を考えるとき、生存の条件を変えながら生きていく人間と、その条件を受け入れながら少しずつ過去の状態に戻っていくこうとする自然との、根本的な生存原理の違いを私は感じてしまう。そしてこの自然と人間の違いの奥には、自然がつくりだしている時間世界と、人間の時間世界の相違が

て、循環する時間世界のなかで生存している自然から自立した動物になった。自然のように、精いっぱい春を生き、秋を生きていくことを、生命の証とすることはできなくなった。

こうして、人間の営みは自然の営みを阻害するようになったのではなからうか。なぜなら人間たちは生存していくために変化を求めつづけるけれども、自然は生存条件の変化を求めないからである。

とすると自然と人間が共生するには、循環的な時間世界のなかで、変化を望まずに生きている自然の時空をこわさないでおくことのできる社会を、私たちがつくりだすしかないのである。

(内山節「森にかよう道―知床から屋久島まで―」による)
(注) 赤石川＝青森・秋田県境の白神山地を源流とする川。
大雪山＝北海道中央部にある火山群。

1 ——線部ア〜エの中から、文法的性質が他と異なるものを一つ選び、記号で答えよ。

2 文章中の a にあてはまる語として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア しかし イ ただし ウ あるいは エ だから

3 次の文は、——線部①の原因を筆者がどのように考えているかを説明したものである。I・II に適当な言葉を補え。ただし、I には本文中から十三字で抜き出して書き、II には人間の時間世界の特徴にふれ、三十字以内の言葉を考えて答えること。

自然は I 時間世界のなかで生きてきたが、II 動物と なった人間の営みが、自然の営みを阻害するようになったから。

4 筆者によれば、——線部②「自然と人間の共生」のために必要なのは、どのようなことか。「生存条件」「時間世界」という言葉を使って、六十五字以内で書け。

5 この文章について説明したものととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 目には見えない二通りの時間世界のあり方を、比喩を多用して幻想的に表現することで読者の想像力をかりたてている。
- イ 筆者の実体験を交えつつ、人間と自然のそれぞれの時間世界について言葉を言い換えながら説明して考察を深めている。
- ウ 自然の時間世界の立場からこれまでの人間のあり方を批判し、人間が自然に従う方法について詳しい説明を試みている。
- エ 筆者が実際に自然に足を運んで得た数値の積み重ねから、対立する二つの時間世界のあり方について明らかにしている。

3

次の文章を読んで、あとの1〜4の問いに答えなさい。

常州の東城寺に、教王房の法橋田幸と云ひて、寺法師にて学生あり(寺で学んだ学僧)けり。他事なく正教に眼をさらして、頭密の勤行怠りなき上人にて、(余念なく仏教の教えを学び)

世間の事、無下に無沙汰なり。田舎の習ひなれば、田に入れむために、(いっこうに無頓着であった)

小法師、糞を馬に付けてゆくを見て、「何しに糞をば田に入るぞ。(若い僧が)

やれ、法師が仁王経を祈りに誦むぞ。馬の糞に劣る仁王経しもあらん(注)にやまやう

や」とぞ云ひける。

また、ある時、弟子共に云はく、「世間の人は愚かにて、思ひもよらぬ事を思ひはからひたり。杵子一つにて白二つを搗く様あるべし。(私に思いついた)

一つの白をば常の如く置き、一つの白をば下へ向けて吊るすべし。さて杵を上げ下さむに、二つの白を搗くべし」と云ふ。弟子の云はく、「上

の白には物がたまり候ふべくはこそ、搗き候はめ」といへば、「この難(たまるのでしたら)こそありけれ」とて、詰まりけり。(搗けるでしようが)

(注) 常州：今の茨城県。 頭密の勤行：仏教のお勤め。 仁王経：経典の名。

1 線部③「思ひはからひたり」を現代仮名遣いに直して書け。

2 線部①は上人の優れている部分だが、これに対して、上人の欠けている部分を表す言葉を、本文中から句読点を含めて十三字で抜き出して書け。

3 上人は——線部②「仁王経」についてどのように考えているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 仁王経にも馬の糞に劣らないききめがあるはずだ。
- イ 馬の糞よりききめの劣る仁王経などあるはずがない。
- ウ 馬の糞には仁王経よりすばらしいききめがあるはずだ。
- エ 仁王経よりききめの劣る馬の糞がきつとあるはずだ。

4 次は、本文について話し合っている先生と生徒の会話である。

I Ⅲ には本文中から七字の言葉を抜き出して書き、Ⅱ にはあとの語群から最も適当なものを選んで記号で答え、Ⅲ にはふさわしい内容を考えて二十字以内の現代語で書くこと。

先生 「上人が弟子に言った思いつきは、どんなことでしたか。」
生徒 A 「一本の杵で二つの白を搗く方法です。その説明が面白くて思わず笑ってしまいました。上人は自信満々ですね。」 I
であるため、そんなアイデアは思いつかないだろうと上人は考えています。」

先生 「そうですね。自分は皆と違ってⅡ から、すばらしいアイデアが浮かんだと思っっていますね。しかし最後には言葉に詰まってしまうました。それはなぜですか。」
生徒 B 「Ⅲ ことを、弟子に指摘されてしまったからです。」

ア 目が高い イ 腕が立つ
ウ 頭が切れる エ 顔が利く

4

次の文章を読んで、あとの1～5の問いに答えなさい。

青森県に住む中学二年の「ぼく」は、ラジオからきいた英語の歌に衝撃を受け、翌日教室で歌い始めたところ、クラスの斉藤多恵から「いい曲」だからもう一回歌ってほしいと言われ、歌った。

「ありがとう。本当にいい曲ね」

斉藤多恵はまたきれいな標準語でそういった。ぼくはどきまぎしてしまった。女子から面と向かってありがとうといわれたのは初めてだ。

「な、いい曲だろう」それでもうれしくて心があたたかくなった。

「うん。なんていう曲なの？」彼女は笑ってぼくをみた。彼女の笑い顔が意外に明るかったので少しびびりした。

《お願い・お願い・わたし》っていうんだ。たぶんな。《ブリーズ・ブリーズ・ミー》っていうっていたから、日本語だとそうなるんじゃないかと思っただけだよ。

「そう、かもね」彼女はクスクスと笑った。かわいい笑顔だった。ぼくはまたまたびびりした。いつも一人静かにしている彼女がこんなにかわいい笑顔を持っていたのかと本当におどろいた。

「ヒョウヒョウ」

「ヘタクソのプレスリー」

「この、えふりこき」

級友たちが、この、キザ野郎！ とぼくをからかい始め、斉藤多恵は急に笑顔をひっこめて席に戻った。からかいの的になるのがいやなのだ。からかいの集中攻撃を受けたけれど、不思議なことにはぼくは度胸が据わっていた。こんなことも初めてだ。

「俺の歌はヘタクソだけど、お前らもアメリカ軍放送でちゃんと聞いてみるよ。ぶったまげるぐらいにすげえいい歌だぞ」ぼくはみんなをみまわしていつてやった。

信じられないことに、翌日からぼくたちの教室で《ブリーズ・ブリーズ・ミー》があちこちで歌われた。アメリカ軍放送をきいた連中で、熱い炎は勢いよく飛び火して同学年の二年生たちを燃えあがらせた。誰かが《ブリーズ・ブリーズ・ミー》を歌う。歌いたくて仕方がないのだし、歌をおぼえたことを自慢したいのだ。すると誰かが、ちがう、こうだぜ、と歌い始める。するとまた誰かが、ちがうちがう、こうだよ、と歌い始める。そんな調子であつというまに《ブリーズ・ブリーズ・ミー》に熱狂してしまった。

鼻高々だった。なにしろぼくが発見した曲なのだ。ぼくは調子にのって斉藤多恵に声をかけた。女子に声をかけるなんて初めての経験だった。《ブリーズ・ブリーズ・ミー》をみんなの前で歌ったことで少しだけ度胸がついたみたいだった。斉藤多恵に《ブリーズ・ブリーズ・ミー》の感想をきいてみたかった。ぼくが歌ったとき、彼女のひとこと、力石や輪島や、ほかの何人かがアメリカ軍放送に耳を傾けたのだし、彼女が声をかけてくれたことがうれしかったし、そのことで感謝の気持ちもあつて声をかけたかった。

「斉藤、どうだった？ 《お願い・お願い・わたし》、ラジオできいてみたか？」きつとぼくを喜ばすような返事をしてくれると確信していた。

「ううん。うち、ラジオがないの」斉藤多恵ははにかむように少し笑った。

ぼくは息が止まった。きいてはいけないことをきいてしまったような気がした。

「そうか……」
「きつとぼくがきいて、すげえいい歌だ」というのはわかったよ」

「ほんとともっといい歌なんだ。俺のでたらめな英語じゃなくてちゃん

とした英語で書いたほうがさ」
 そういつてからまたしまったと後悔した。斉藤多恵の家にはラジオがないと告白されたばかりじゃねえか……。

(川上健一「翼はいつまでも」による)
 (注) プレスリリース1950年代半ばに登場したアメリカの歌手。

1 線部①「どきまぎしてしまった」は「ぼく」のどのような様子を表しているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。
 ア とつさのことに慌てている イ 願いがかなって興奮している
 ウ 意外なことにあきれている エ 返事するのをためらっている

2 次の文は、線部②を言ったときの「ぼく」の心情を説明したものである。I・IIに適切な言葉を補え。ただし、Iには十五字以内の言葉を考えて答え、IIには本文中から六字で抜き出して書くこと。

みんなに《ブリーズ・ブリーズ・ミー》という歌のIならば、自分はIIになっても平気だという気持ち。

3 線部③とあるが、「ぼく」が声をかけたのはなぜか。斉藤多恵に対するこのときの「ぼく」の心情をふまえて、その理由を五十文字以上六十文字以内で書け。

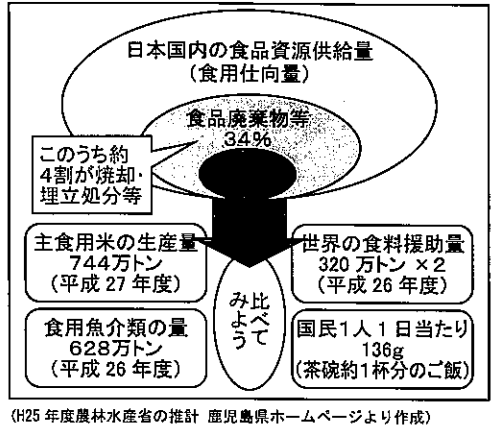
5

鹿児島県では、「食品ロス」の削減に取り組んでいる。「食品ロス」とは、まだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう食品のこと

- ・食品の製造・流通過程の破損等で発生する規格外品
- ・小売店での売れ残り（販売期限切れの返品）
- ・家庭や飲食店での食べ残しや作りすぎた料理
- ・消費（賞味）期限切れの食品

資料1のように、日本国内の食品資源のうち年間約632万トンが「食品ロス」だと推計されている。これは日本国内の主食用米の生産量に匹敵し、世界の食料援助量の約2倍に相当。全国民が毎日、茶碗1杯分程度のご飯を捨てていることになる。なお、家庭から出される生ごみの約4割が「食品ロス」に当たるといふ統計があり、これが食品ロス全体の約半分を占めている。あなたは、「食品ロス」の削減に関してどのような取り組みをしたいか、あなたの考えを書け。

資料1



(H25年度農林水産省の推計 鹿児島県ホームページより作成)

4 線部④を言ったときの「ぼく」の気持ちの説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。
 ア 斉藤多恵の言葉に覇気がなかったことから、「ぼく」に対して何か隠しごとをしているのではないかとどこかしさを覚えている。
 イ 斉藤多恵から予想もなかった言葉が返ってきたので、「ぼく」の気分のままに不用意に質問してしまったことをくやんでいる。
 ウ 斉藤多恵が期待したような言葉を言ってくれず、どうやら「ぼく」と共感してくれる気がなさそうなので残念に思っている。
 エ 斉藤多恵が「ぼく」に共感してくれようとしているのに、それを阻むような彼女の家の事情があることにいらだっている。

5 「ぼく」にとって斉藤多恵はどのような存在であるか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。
 ア 家の事情などがわからず謎が多いが、彼女の生き方から教えられることが多く、「ぼく」の強い心の支えになっている存在。
 イ 「ぼく」の片思いの相手であり、いつも大事なところで「ぼく」の期待を裏切るために、「ぼく」に切ない思いをさせる存在。
 ウ ふだんは「ぼく」に冷たくしているが、彼女が興味をもったことには熱意をもって「ぼく」の味方になってくれる頼もしい存在。
 エ 「ぼく」とあまり話したことはないが、ふだん気になっており、「ぼく」に意外なうれしさやあたたかさをもたらしてくれる存在。

条件 「食品ロス」の削減に向けて～消費者にできること

- 資料2 ●「賞味期限」と「消費期限」の違いを理解する
 「賞味期限」は、「消費期限」とは異なり、この期限を過ぎても、すぐ食べられないというわけではない。見た目やにおいなどの五感で、食べられるかどうかを自分で判断することが大切。
- 資料3 ●必要以上に新鮮さを求めすぎない
 店で奥に陳列されている日付の新しい商品を選ぶことがないか。この行動は、古い商品が売れ残って廃棄される原因の一つだといわれている。
- 資料4 ●「キリ」と「スギナイ」で取り組む
 キリ：①食材の使いキリ
 ②料理の食べキリ
 ③生ごみの水キリ
 スギナイ：①買いスギナイ
 ②外食で注文しスギナイ
 ③料理を作りスギナイ
 ④食材を除去しスギナイ

(資料2～4は、鹿児島県ホームページをもとに作成)

- (1) 取り組みを考える際にあなたが参考にしたことを、資料2～4の中から一つ選び、解答用紙に資料の番号を記入すること。
 (2) 資料1の内容にもふれながら、条件(1)で選択した資料を用いて、具体的に書くこと。加えて、条件(1)で選択しなかった資料も参考にしよう。
 (3) 六行以上八行以下で書くこと。
 (4) 原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。